

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	家庭科教育法		
担当者(Instructors)	加藤 祥子	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)			
<p>児童の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計を理解し、情報機器及び教材の効果的な活用法を習得し、授業設計に生かすことができる。学習指導案の意義と目的を理解し、具体的な授業を想定した授業設計に基づく学習指導案を作成することができる。模擬授業を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身につける。</p>			

■ 授業形態・授業の方法 (Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	4, 4, 4, 3コマの集中講義で行なう。縫製教材の作り方、グループディスカッションによるグループワーク、発表も行う。

■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション 講義の概要と小学校家庭科指導要領・教科書を読む	教科書を見ながら講義全体を説明して、グループワークのため、5名程度の班編成を行う。	<input type="checkbox"/>
第2回	先行授業分析(1)身近で奥が深い家庭科	受けてきた家庭科の授業について振り返る。	<input type="checkbox"/>
第3回	先行授業分析(2)正しい答えは一つではない	第2回で振り返った授業に相応する箇所を家庭科教科書で確認する。	<input type="checkbox"/>
第4回	先行授業実践分析(3)自分の生活に役立てる	第2回、第3回についてグループで話し合い発表、質疑、まとめる。	<input type="checkbox"/>
第5回	先行授業分析(4)何が公正なのか問う	続：同上	<input type="checkbox"/>
第6回	生活の中の教材と教材研究	教材作りと家庭科：教材を通して家庭科で何を学ぶか考える。	<input type="checkbox"/>
第7回	指導方法(1)ロールプレイングの技法による授業効果(実践も含む)	教材の効果、必要性、作り方などをロールプレイングで考える。	<input type="checkbox"/>
第8回	指導方法(2)バスセッションの技法による授業効果(実践も含む)	教材の作り方をバスセッションにより討議して効果的な作り方を検討学習指導案に繋げる。	<input type="checkbox"/>
第9回	指導方法(3)食育と実験・実習の技法による授業効果(実践も含む)	食育を実験的に考察して実習に繋げる。	<input type="checkbox"/>
第10回	指導方法(4)身近な生活環境を整える実験・実習・情報機器及び教材の効果的な活用法(実践も含む)	生活環境を整える教材を考え、実験、実習を通して効果的に活用する。	<input type="checkbox"/>
第11回	授業評価の意義と方法	授業評価の意義と方法について考える。	<input type="checkbox"/>
第12回	授業づくり(1) (「家族」の学習指導案を書く)	「家族」の学習指導案を書き、グループ1、2が発表する。	<input type="checkbox"/>
第13回	授業づくり(2) (「食生活」の学習指導案を書く)	「食生活」の学習指導案を書き、グループ3、4が発表する。	<input type="checkbox"/>
第14回	模擬授業(1) (「家族」の実践学習を実践する)	「家族」の学習指導案で模擬授業をする。グループ3、4が実践する。	<input type="checkbox"/>
第15回	模擬授業(2) (「食生活」の実践学習を実践する)・まとめ	「食生活」の学習指導案で模擬授業をする。グループで1、2が実践する。	<input type="checkbox"/>

■ 授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)	
<p>実習についての指導法は、その準備を含めて考える。他領域、他教科との繋がりを意識して検討すること(概ね1時間程度)。事前事後に3時間程度の学習時間が必要である。教材の検討、事前の準備を通して自信を持って指導できるように学習する。第12回からの授業づくりでは学習指導案を検討する準備、模擬授業の準備、さらに他のグループを評価する準備が必要である。グループで話し合い、それぞれの立場で</p>	

発表、評価が出来るよう事前に準備して臨むこと。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業の中で課題を検討、発表して考え、意見を加味して実践する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を習得できている。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	現代の教育現場に存在する多種多様な問題や課題に向き合う事のできる指向力、判断力を持ち豊かな表現力を習得できている。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	小学校、幼稚園での教育に主体的に携わることのできる幅広い人間力を体得している。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内での小論文、学習態度、出席遅刻の有無などを総合的に評価する。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「小学校学習指導要領解説 家庭編」(平成29年6月告示 文部科学省)	
2	「小学校学習指導要領 家庭」(平成29年3月告示 文部科学省)	
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		